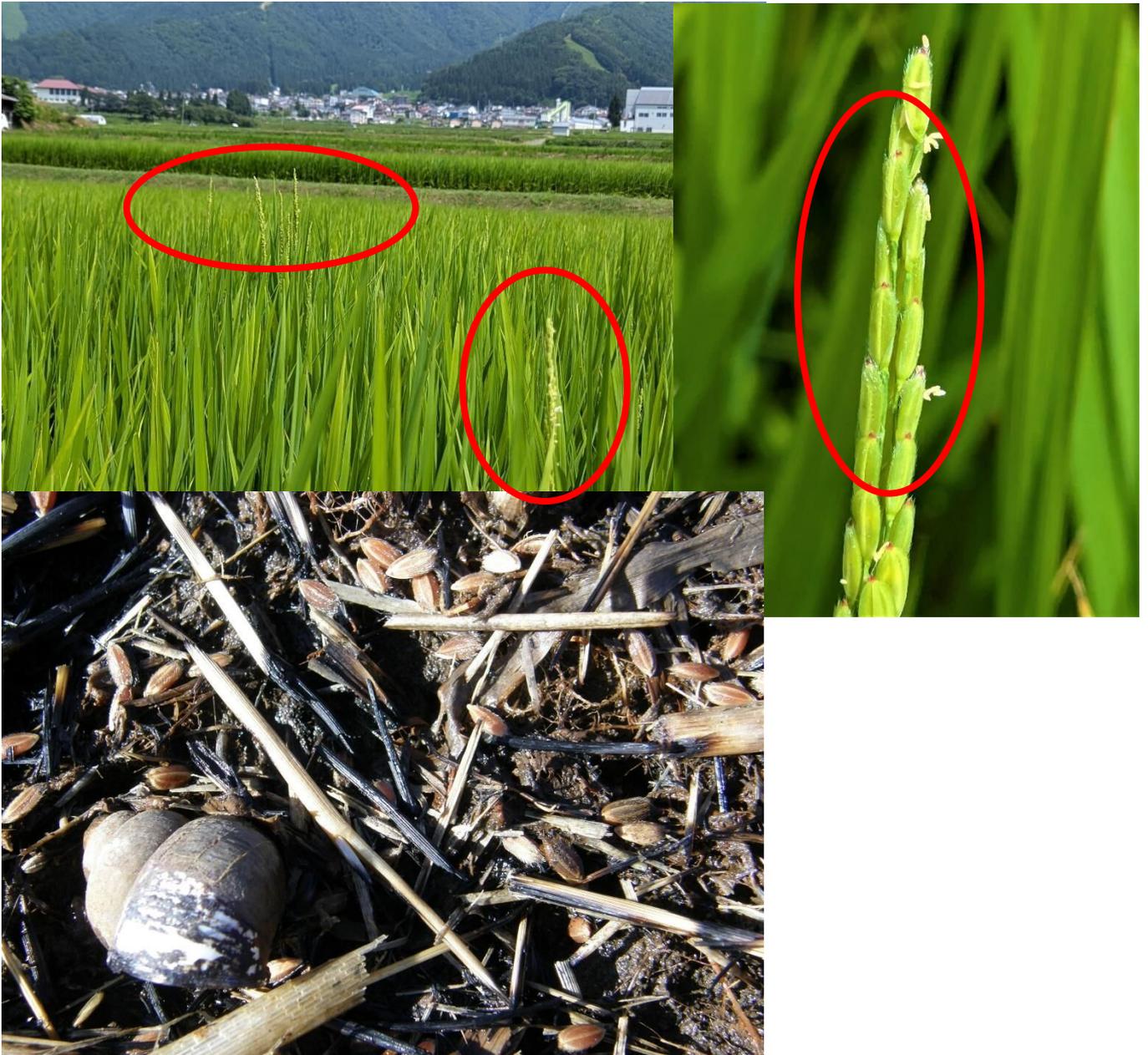


## 雑草イネの対策をしましょう！

北信農業農村支援センター  
JAながの

雑草イネって何？（一般的には赤米といわれています）

- ・雑草イネとは、脱粒性が強く、粃がこぼれてしまうため雑草化してしまうイネです。
- ・この地域で発生している雑草イネは、コシヒカリよりも草丈が長く、粃の先端が赤い特徴があります。
- ・一般的には玄米の表面が赤褐色～農紫色で、通常うるち米に混入すると等級格下げになります。
- ・栽培イネと同じイネなので、ヒエのように除草剤の効果が期待できません。



## 雑草イネはどこが問題？

- ・脱粒しやすく、粃がこぼれて雑草化すること。放置すると年々増加してしまいます。

1粒発生⇒3～5本穂が出て、80～100粒/穂の粃をつける＝240～500粒の粃

この内の80%が脱粒し、翌年20%が出芽すると・・・

2年目⇒40～80個体発生。翌年の発生源となる粃数＝9,600～40,000粒

3年目⇒1,500～6,400個体発生。

**4年目⇒512,000個体発生の可能性が!!**

田植えをする場合約100,000個体/10a (60株/坪×5本×330)

### 植えたイネの5倍以上になる!!

- ・栽培品種と同じイネなので、発生してしまうと除草剤が効きません。このため普通に生育し、養分や水分、光が競合し栽培品種の収量が低下します。

- ・脱粒しないで残った雑草イネの一部が収穫時に混入し、異品種混入等で出荷米の等級が低下します。

- ・育成された品種ではないため、食味が落ちます。また精米しても米に赤みが残ることがあります。



## 雑草イネの対策

- ①田植え時期を遅らせる
- ②代かきを10日程度の間隔をあけて2回以上行う
- ③雑草イネに効果が確認されている除草剤を、田植え直後から3回使用する（代かきから田植えまで7日以上空く場合は、植え代直後に必ず初期剤を使用する）
- ④抜き取りを行う 植えていないカ所のイネはいらぬイネ
- ⑤作業は発生のないほ場から行う
- ⑥秋起こしは行わない

## 抜き取りのポイント

- ①草丈が長いもの 通常よりも1穂分ほど背が高いもの
- ②粃の先端が赤いもの（栽培品種がもち品種の場合は除く）、又はノゲが長い・赤いもの
- ③植えてないカ所にあるもの 畔際など

これらの対策を3年間継続すると、発生量をほぼゼロにすることができます。

種子の寿命が比較的長いので、3年は続ける必要があります。